

Mission Critical Mail Filter
for InterSec/MW
導入手順書

日本電気株式会社

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2021/1	初版作成

はじめに

本文書の最新版は以下から入手可能ですので、必ず最新版をご確認ください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3170102460>

本ドキュメントは、InterSec/MW400I2、InterSecVM/MW V6.0 以降で Mission Critical Mail Filter for InterSec/MW (以下 MCMail と表記します) を利用する際の構築手順を InterSec/MW400I2 をベースに説明したものです。

MCMail を利用することで、メールの無害化対策システムを構築することができます。MCMail のご利用にあたっては、別途 Mission Critical Mail Filter ライセンスの購入が必要です。

なお、構築の際には、本書および MW の『ユーザーズガイド』、『Mission Critical Mail Filter』の製品マニュアルもあわせて参照してください。MCMail の製品マニュアルは、MCMail のシステム管理者メニュー (Management Console) から参照可能です。

名称	内容	提供形態
システム設計ガイド (system.pdf)	導入前に最初に参照していただくドキュメントです。 サーバの構成などの決定に必要な情報が記載されています。	PDF
管理者ガイド (admin.pdf)	管理者にとって必要な情報が記載されています。	PDF
セットアップカード (setupcard.pdf)	インストール・アンインストール手順が記載されています。	PDF
利用者ガイド (user.pdf)	エンドユーザが機能を利用するための情報が記載されています。	PDF
外部ディレクトリ連携ガイド (ldap.pdf)	外部ディレクトリサーバ連携のための設定手順等が記載されています。	PDF
外部フィルタプログラム作成ガイド (develop.pdf)	フィルタ処理を行う外部プログラムを作成するために必要な情報が記載されています。	PDF

著作権について

本ドキュメントに記載している内容の著作権は日本電気株式会社が保有します。本ドキュメントの全てもしくは一部を日本電気株式会社に無断で引用することを禁止します。

商標などについて

- Red Hat ならびに Shadow Man ロゴは米国その他の国で Red Hat,Inc.の登録商標もしくは商標です。
- Linux は Linus Torvalds の商標です。他の会社および製品の名称は、全てそれぞれの所有する商標です。
- UNIX は The Open Group の登録商標です。
- Internet Explorer、Microsoft Internet Explorer logo(R) は、米国 Microsoft 社の登録商標です。
- Mozilla Firefox と Firefox のロゴは Mozilla Foundation の商標です。
- Microsoft Edge と Microsoft Edge ロゴは、Microsoft の商標登録です。
- Goole Chrome と Goolge Chrome ロゴは、Google の商標登録です。
- その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	- 3 -
1. 構築を開始する前に.....	- 7 -
1.1. 概要	- 7 -
1.2. 本手順書内の記載について.....	- 7 -
1.3. 構築の流れ	- 8 -
1.4. フェイルオーバークラスタ構成時の注意事項	- 9 -
1.4.1. 「7. クラスタスクリプトの編集」について.....	- 9 -
1.4.2. 「10. ディレクトリサーバ(openldap)の設定」について.....	- 11 -
1.4.3. 「11. 仮想ドメインの作成」について.....	- 11 -
2. MW の構築	- 12 -
2.1. WEBMAIL-X の設定	- 12 -
2.1.1. WEBMAIL-X のインストール	- 12 -
2.1.2. WEBMAIL-X 管理画面へのログイン	- 15 -
2.1.3. 基本設定.....	- 16 -
2.1.4. LDAP 設定.....	- 17 -
2.1.5. WEBMAIL-X 管理グループの作成.....	- 19 -
2.2. ディレクトリサーバ(OPENLDAP)の設定	- 20 -
2.2.1. LDAP サーバの設定	- 20 -
2.2.2. WEBMAIL-X 管理グループ ID の登録	- 22 -
2.2.3. LDAP サーバに対するホスト情報登録.....	- 23 -
2.3. 仮想ドメインの設定	- 24 -
2.4. LDAP ログの出力設定	- 26 -
2.5. メールサーバ(DOVECOT)設定	- 27 -
2.6. ユーザ管理	- 29 -
2.6.1. Management Console(ドメイン管理者)への接続.....	- 29 -
2.6.2. ユーザの追加	- 31 -
3. Mission Critical Mail Filter のインストール	- 35 -
3.1. システム管理者メニューへの接続	- 35 -
3.2. MISSION CRITICAL MAIL FILTER の有効化.....	- 36 -
4. Mission Critical Mail Filter の構築	- 38 -
4.1. MISSION CRITICAL MAIL FILTER 管理機能の起動.....	- 38 -
4.1.1. WEB ブラウザから直接 URL を指定して起動する場合	- 38 -
4.1.2. MW のサービス画面から起動する場合	- 38 -
4.2. ユーザライセンスの登録	- 39 -
4.3. フィルタルールの設定	- 39 -
4.4. メール格納サーバの追加.....	- 40 -
4.5. 格納サーバ・隔離メール格納サーバの指定	- 41 -
4.6. エラーメール送信者リストの指定.....	- 42 -
4.7. 配送ルールの設定	- 42 -
4.8. ドメインの追加	- 44 -

4.9.	SMTP サービスの再起動.....	- 45 -
4.10.	メールの導通確認	- 45 -
5.	フェイルオーバークラスタ構成の確認.....	- 46 -
5.1.	サービス起動状態の確認	- 46 -
5.2.	LDAP 設定状態の確認	- 46 -
5.3.	MISSION CRITICAL MAIL FILTER の設定状態確認	- 47 -
6.	注意事項	- 48 -
7.	補足情報	- 49 -
7.1.	スキーマ情報.....	- 49 -
7.2.	MISSION CRITICAL MAIL FILTER の許可サービスの設定	- 50 -

1. 構築を開始する前に

1.1. 概要

MCMail の構築をはじめる前に、事前準備と LDAP サーバの構築を完了させておく必要があります。「Mission Critical Mail Filter 外部ディレクトリ連携ガイド」で説明している OpenLDAP サーバのインストールおよびスキーマの定義について、MW で実施する必要はありません。

LDAP サーバは、MW で提供しているサービスを使用します。

ネットワーク上のクライアント PC の Internet Explorer を用いて導入を行います。本手順書では、Internet Explorer 11 の画面を使用して説明します。

1.2. 本手順書内の記載について

本手順書では MW のホスト名 (FQDN)、メールドメインに以下の例を用いて記載していますので、実際の作業時には本番情報に読み替えて作業をお願いします。

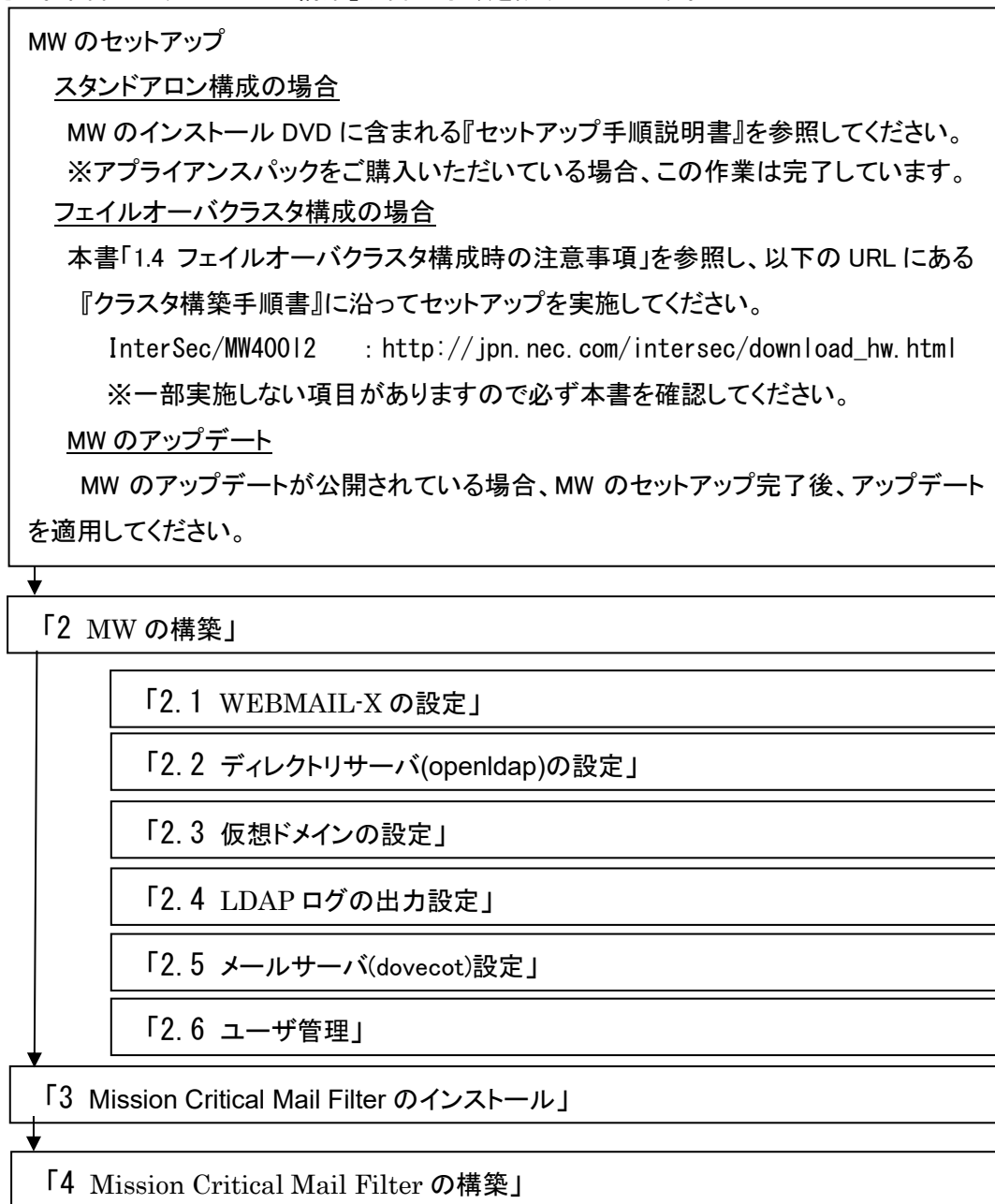
MW (ディレクトリサーバを含む) のホスト名 (FQDN)	mw1.app.localdomain
メールドメイン	domain-a.localdomain

また、MW、MCMail の各 Web 管理画面 (Management Console) は、以下のように表記します。

MW の ManagementConsole	Management Console
MCMail の ManagementConsole	MCMail の Management Console

1.3. 構築の流れ

MW で MCMail をご利用になる場合、以下の流れで MW、MCMail のセットアップを実施してください。本書では、「2 MW の構築」以降の手順を説明しています。



フェイルオーバークラスタ構成では「2 MW の構築」「4 Mission Critical Mail Filter の構築」の手順において留意すべき点があります。手順中にその旨記載がありますので、注意してください。



複数 MW サーバでの運用を行う場合、すべての MW で上記のセットアップを実施してください。

1.4. フェイルオーバークラスタ構成時の注意事項

「クラスタ構築手順書」の手順を実施する際、以下の点に注意してください。

1.4.1. 「7. クラスタスクリプトの編集」について

フェイルオーバー、フェイルバック発生時にサービスの起動、停止を管理するクラスタスクリプトの編集において、ディレクトリサーバ(openldap)、および MCMail サービスの起動、停止コマンドを記述しておく必要があります。

『クラスタ構築手順書』-「7. クラスタスクリプトの編集」の「7.1. start.sh の編集」および「7.2. stop.sh の編集」で、以下のコマンド実行行を記述してください。

- 「7.1. start.sh の編集」

(編集前)

```
/opt/nec/wbmc/bin/wbmc_cluster_init -k
/opt/nec/wbmc/bin/wbmc_witchymail.sh

#/usr/bin/systemctl start dovecot
#/usr/bin/systemctl start postfix
```

(編集後)

```
/opt/nec/wbmc/bin/wbmc_cluster_init -k
/opt/nec/wbmc/bin/wbmc_witchymail.sh

/usr/bin/systemctl start slapd
/usr/bin/systemctl start dovecot
/usr/bin/systemctl start postfix
/usr/bin/systemctl start mlogd
/usr/bin/systemctl start minetd
/usr/bin/systemctl start mshd
/usr/bin/systemctl start webmail-httpd
```

- 「7.2. stop.sh の編集」

(編集前)

```
perl /opt/nec/clusterpro/scripts/Failover/exec1/cstop.pl  
#/usr/bin/systemctl stop postfix  
#/usr/bin/systemctl stop dovecot
```

(編集後)

```
perl /opt/nec/clusterpro/scripts/Failover/exec1/cstop.pl  
/usr/bin/systemctl stop webmail-httpd  
/usr/bin/systemctl stop mshd  
/usr/bin/systemctl stop minetd  
/usr/bin/systemctl stop mlogd  
/usr/bin/systemctl stop postfix  
/usr/bin/systemctl stop dovecot  
/usr/bin/systemctl stop slapd
```

1.4.2. 「10. ディレクトリサーバ(openldap)の設定」について

「クラスタ構築手順書」の「10. ディレクトリサーバ(openldap)の設定」は実施しないでください。

1.4.3. 「11. 仮想ドメインの作成」について

「クラスタ構築手順書」の「11. 仮想ドメインの作成」は実施しないでください。

仮想ドメインの作成は、本書「2 MW の構築」－「2.3 仮想ドメインの設定」で行う必要があります。「クラスタ構築手順書」－「11. 仮想ドメインの作成」で仮想ドメインを作成した場合、本書「2.2 ディレクトリサーバ(openldap)の設定」が行えません。

2. MWの構築

Management Console(システム管理者)画面にログインして、以下の設定を行ってください。

2.1. WEBMAIL-Xの設定

2.1.1. WEBMAIL-X のインストール

(1) 「サービス」画面を開き、「WEBMAIL-X サーバ(webmail-httpd)」をクリックしてください。

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
停止 ▼	停止中	起動	停止	Mission Critical Mail Filter(MCMail)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールサーバ(postfix) メールサーバ(dovecot)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールコントローラ(mwmctl)
停止 ▼	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ディレクトリサーバ(ldap)
停止 ▼	停止中	起動	停止	Webサーバ(httpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	リモートシェル(sshd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	システム監視(mwmonitor)
停止	停止中	起動	停止	サービス監視(chksvc)
設定				

(2) WEBMAIL-X の利用開始を行っていない場合、以下の画面が表示されます。

WEBMAIL-X の接続プロトコルを選択して[設定]をクリックしてください。

■ WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコル

WEBMAIL-Xサーバを開始される前に必ずWEBMAIL-Xの接続プロトコルを設定してください。

この設定は、WEBMAIL-Xのご利用開始時のみ必要です。
WEBMAIL-Xの接続プロトコルを設定した後の切り替えはできません。
フェイルオーバークラスタ構成をご利用の場合は、クラスタの構築(「クラスタプロ(CLUSTERPRO X)」サービス画面の「クラスタ基本設定」「フェイルオーバーの設定」)が完了した後に行ってください。

■ WEBMAIL-X 接続先メールサーバプロトコル選択

☒ IMAP接続を利用する

☐ POP接続を利用する

IMAP 接続を利用する

WEBMAIL-X はメールサーバに IMAP プロトコルを使用して接続します。

ユーザのメールデータは、メールサーバ側で保存、管理されます。

POP 接続を利用する

WEBMAIL-X はメールサーバに POP プロトコルを使用して接続します。

ユーザのメールデータを WEBMAIL-X が保存します。



ユーザのメール保存容量管理をグループ単位で行う場合、POP 接続を選択する必要があります。

(3) 以下の画面が表示されたら[開始]をクリックしてください。

WEBMAIL-X をインストールします。

■ WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコル

WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコル設定をおこないます。

[開始]ボタンをクリックすると、WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコルをPOPに設定します。
[中止]ボタンをクリックすると、設定変更を中止します。



フェイルオーバークラスタ構成の場合、もう一方の機器にフェイルオーバー後、(1)～(3)の手順を実施してください。

- (4) インストールが完了した後、「サービス」画面で「WEBMAIL-X サーバ(webmail-httpd)」サービスの「OS 起動時の状態」で「起動」を選択し、[設定]をクリックしてください。

起動 ▼	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
------	-----	----	----	-----------------------------

次に、[起動]をクリックし WEBMAIL-X サーバを起動してください。

起動 ▼	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
------	-----	----	----	-----------------------------



フェイルオーバークラスタ構成の場合、「OS 起動時の状態」設定は「停止」を指定してください。



フェイルオーバークラスタ構成の場合、WEBMAIL-X サーバ設定(サービス > WEBMAIL-X サーバ(webmail-httpd))における「■WEBMAIL-X 基本設定」の項目は、両系で実施してください。

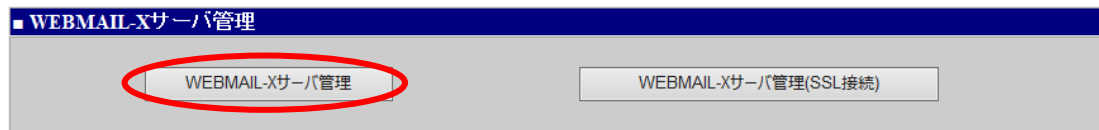
WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)	
サービス > WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd) 戻る ヘルプ	
■ WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコル	
■ WEBMAIL-X 接続先メールサーバプロトコル IMAP接続を利用する	
■ WEBMAIL-X 基本設定	
<div> <div>■ 基本項目</div> <div>Listen: 10080</div> <div>ServerAdmin: root@localhost</div> <div>TimeOut: 1200</div> </div> <div> <div>■ prefork項目</div> <div>■ SSL項目</div> <div>SSL機能: <input type="checkbox"/> SSLを使用する SSL証明書管理</div> <div>暗号化強度: TLSv1~TLSv1.2/暗号化強度:高 ▼</div> <div>Listen: 10443</div> </div> <div style="text-align: right;">設定</div>	

2.1.2. WEBMAIL-X 管理画面へのログイン



ユーザのメール保存容量の管理をグループ単位で行う場合、グループを作成してください。

- (1) 「サービス > WEBMAIL-X サーバ(webmail-httpd)」画面を開き、[WEBMAIL-X サーバ管理]をクリックしてください。



- (2) Web ブラウザの別ウィンドウが開き、以下の WEBMAIL-X 管理者画面へのログイン画面が表示されます。

管理画面への管理者アカウント、パスワードは以下のとおりです。

管理者アカウント	: root
パスワード	: root

2.1.3. 基本設定

- (1) 「設定」―「システム設定」をクリックし、[基本設定]をクリックしてください。
「プロファイル動作モード」を“ldap”に指定し、[適用]をクリックしてください。

項目	設定値
基本設定	
プロファイル動作モード	ldap

2.1.4. LDAP 設定

MW の LDAP サーバと連携させるため、WEBMAIL-X の LDAP 設定を行ってください。

(1) 「設定」→「システム設定」をクリックし、[LDAP 設定]をクリックしてください。

「LDAP 接続設定」「LDAP 属性設定」の各項目について、次ページの表のとおり入力し、[適用]をクリックしてください。

The screenshot shows the WebMail-X administration interface. On the left sidebar, the '設定' (Settings) menu is expanded, and 'システム設定' (System Settings) is selected, indicated by a red circle with the number 1. Below it, the 'LDAP 設定' (LDAP Settings) option is highlighted with a red circle and the number 2. The main content area shows the 'LDAP 設定' tab selected, indicated by a red circle with the number 3. The page is divided into two columns: 'LDAP 接続設定' (LDAP Connection Settings) and 'LDAP 属性設定' (LDAP Attribute Settings). The 'LDAP 接続設定' column includes fields for LDAP server, port, base DN, search scope, search DN, and password, along with a search filter and a test button. The 'LDAP 属性設定' column includes fields for user ID, group code, email address, mail account, mail address, mail port number, mail count, mail address, mail port number, PC display name, PC signature, mobile display name, mobile signature, and mail host. At the bottom right, the '適用' (Apply) button is circled in red with the number 4, next to a 'リセット' (Reset) button.

LDAP 接続設定	LDAP 属性設定
LDAPサーバ *	ユーザID *
LDAPポート *	グループコード *
LDAP ベースDN *	メールアドレス *
LDAP検索スコープ *	受信サーバアカウント *
LDAP 接続DN *	受信サーバアドレス *
LDAP 接続DN パスワード *	受信サーバポート番号 *
	送信サーバアカウント *
	送信サーバアドレス *
	送信サーバポート番号 *
	PC用表示名 *
	PC用シグネチャ *
	携帯用表示名 *
	携帯用シグネチャ *
	格納サーバアドレス *

項目		設定値
LDAP 接続設定		
	LDAP サーバ	localhost
	LDAP ポート	389
	LDAP ベース DN	dc=intersecmw,dc=local
	LDAP 検索スコープ	sub
	LDAP 接続 DN	cn=Manager,dc=intersecmw,dc=local
	LDAP 接続 DN パスワード	(MW の初期設定パスワード)
LDAP 属性設定		
	ユーザ ID	mc-muid
	グループコード	departmentNumber
	メールアドレス	mail
	受信サーバアカウント	mail
	受信サーバアドレス	設定の必要はありません。
	受信サーバポート番号	設定の必要はありません。
	送信サーバアカウント	mail
	送信サーバアドレス	設定の必要はありません。
	送信サーバポート番号	設定の必要はありません。
	PC 用表示名	displayName
	PC 用シグネチャ	displayName
	携帯用表示名	displayName
	携帯用シグネチャ	displayName
	格納サーバアドレス	mailHost

2.1.5. WEBMAIL-X 管理グループの作成

(1) 「グループ管理」をクリックし、[グループ一覧]をクリックしてください。

グループコード	グループ名	容量
10	10MBユーザ	10485760
20	20MBユーザ	20971520
30	30MBユーザ	31457280
40	40MBユーザ	41943040
50	50MBユーザ	52428800
60	60MBユーザ	62914560

WEBMAIL-X にデフォルトで設定されているグループコードが表示されます。

必要に応じてグループコードの追加を行ってください。

※ 本項で作成したグループコードを、ユーザ管理で使用するためには、
「2.2.2 WEBMAIL-X 管理グループ ID の登録」で設定が必要になります。



グループ管理の各設定は、POP 接続と IMAP 接続とで有効な項目が異なります。

POP 接続の場合のみ以下の項目が有効です。

- 基本設定 : 容量制限、期限切れメールの削除
- 初期値設定 : 受信箱の動作、受信箱の動作オプション
- 機能制限設定 : 受信箱の動作、POP 全文取り込みのオプション

詳細は『WitchyMail 管理者マニュアル』—「3.3. グループ管理」を参照してください。

2.2. ディレクトリサーバ(openldap)の設定

2.2.1. LDAP サーバの設定



フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバ側のみ実施してください。

- (1) 「サービス」画面を開き、「■サービス」欄の[ディレクトリサーバ(openldap)]をクリックしてください。



- (2) 「ディレクトリサーバ(openldap)」画面が表示されます。
「■ディレクトリサーバ(openldap)」欄で運用する LDAP サーバの情報を入力し、[設定]をクリックしてください。設定内容については次頁を参照してください。

■ディレクトリサーバ(openldap)

【マルチマスタモード】

マルチマスタモード ☒ 利用する ☐ 利用しない

自己ノード	ID	ノードIP
<input checked="" type="radio"/>	1	mw1.app.localdomain
<input type="radio"/>	2	
<input type="radio"/>	3	
<input type="radio"/>	4	
<input type="radio"/>	5	

設定

図 1 ディレクトリサーバ(openldap)画面

【マルチマスタモード】

各項目の設定内容については、以下を参照してください。

LDAP サーバ情報の入力後、[設定]を押下してください。

マルチマスタモード

“マルチマスタモード”は、「利用する」を選択してください。

●利用する

一つの仮想ドメインを複数の MW の LDAP サーバで運用することができます。

MW サーバ 1 台での運用の場合においても、“利用する”を選択してください。

○利用しない

LDAP サーバの設定においてマルチマスタ構成を想定しない設定の場合、選択します。

“自己ノード”、“ID”、“ノード IP”に MW サーバ(LDAP サーバ)の情報を入力してください。

MW サーバ 1 台での運用の場合は、自サーバの情報のみ入力してください。

自己ノード

現在ディレクトリサーバ(openldap)の設定を行っているノードに自己ノードを選択してください。

ID

ID を指定してください。複数の MW で LDAP サーバを運用する場合、ノード IP と ID は同じ組み合わせになるように設定してください。

ノード IP

FQDN を入力してください。IP アドレスによる指定は不可です。



フェイルオーバークラスタ構成の場合、FIP(フローティング IP)に紐づく FQDN を指定してください。これは、以下の設定項目で指定された、フェイルオーバークラスタ基本設定におけるホスト名です。

Management Console(システム管理者)「システム > フェイルオーバー」画面で
[フェイルオーバーの設定]をクリックして開かれる「クラスタ(フェイルオーバー)」画面
の「■フェイルオーバー基本設定」欄—「ホスト名(FQDN)」

2.2.2. WEBMAIL-X 管理グループ ID の登録



フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバ側のみ実施してください。



ここで登録するグループ ID (GID) は、あらかじめ「2.1.5 WEBMAIL-X 管理グループの作成」で設定したグループコードを指定してください。

- (1) 「ディレクトリサーバ(openldap)」画面の「■グループ情報設定」欄でWEBMAIL-X の管理画面で作成したグループ ID を登録してください。

ここで登録したグループ ID は、MW のユーザ追加時にユーザが所属するグループとして指定することができます。ユーザ追加時にはグループ名を使用します。

■グループ情報設定

GID	グループ名
10	group10
20	group20
30	group30
40	group40
50	group50
60	group60
61	

設定

GID

グループ ID を入力してください。新規追加時のみ指定が可能です。

グループ ID は、WEBMAIL-X の管理画面で作成したグループコードと同じ番号を入力してください。

複数設定する場合、1 件設定すると新しい入力行が表示されます。

グループ名

グループ名を入力してください。使用可能な文字は、英小文字(a～z)と数字(0～9)です。

設定を削除したい場合は、グループ名を空白にしてください。



LDAP ログの出力設定は、「2.3 仮想ドメインの設定」まで完了した後、設定してください。

2.2.3. LDAP サーバに対するホスト情報登録



フェイルオーバークラスタ構成の場合、両系の機器において、以下の設定を行ってください。設定完了後、稼働系において、ディレクトリサーバ(openldap)サービスを再起動してください。
スタンドアロン構成の場合、本設定は不要です。

- (1) ssh で MW にシステム管理者アカウントでリモートログイン、もしくはコンソール画面からシステム管理者でログインして、以下のコマンドを実行して root アカウントに変更してください。

```
su -
```

- (2) /etc/hosts ファイルに以下の設定を追加してください。

```
[FIP] [フェイルオーバークラスタ基本設定におけるホスト名]
```

- (3) /etc/sysconfig/slapd ファイルを編集してください。

編集前)

```
SLAPD_URLS="ldapi:/// ldap://"
```

編集後) 以下の記述を一行でおこなってください。

```
SLAPD_URLS="ldapi://[フェイルオーバークラスタ基本設定におけるホスト名]  
ldap:// [フェイルオーバークラスタ基本設定におけるホスト名] ldaps:// [フェイル  
オーバークラスタ基本設定におけるホスト名] ldap://127.0.0.1"
```

2.3. 仮想ドメインの設定



フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバ側のみ実施してください。

- (1) 「ドメイン情報」画面を開いて、「■仮想ドメイン情報一覧」欄の[追加]をクリックしてください。

InterSec/MV4001 Management Console
Host: mw1.app.localdomain

システム管理者
ディスク
ドメイン情報
Webサーバ
メールサーバ
サービス
パッケージ
システム
Management Console
ログアウト

ドメイン情報

ヘルプ

■実ドメイン情報

操作	ドメイン内管理	ドメイン名	グループ名	IPアドレス	説明
詳細 編集	管理画面	mw1.app.localdomain	reakl	192.168.1.49	

現在、0 個の仮想ドメインが登録されています。

■仮想ドメイン情報一覧

操作	ドメイン内管理	ドメイン名	グループ名	IPアドレス	説明
追加					

(フェイルオーバークラスタ構成の場合、「■実ドメイン情報」欄は表示されません。)

- (2) 「ドメイン情報追加」画面で仮想ドメインを作成してください。

作成に必要な最小限の指定項目は以下のとおりです。その他の設定項目については、運用にあわせて適宜指定してください。

ドメイン名

運用するドメイン名（メールドメイン名）を入力してください。

グループ名

グループ名を入力してください。

【外部認証連携】

認証連携サーバの種類

「ローカルの LDAP サーバと連携する」を選択してください。

この項目を他の連携方法に選択した場合、MCMail との連携が行えませんので、注意してください。

認証アカウント

メールクライアントからの認証アカウントのために使用する LDAP 属性を選択してください。「UID」を選択する場合、MW 上の「ローカルの LDAP サーバと連携する」すべての仮想ドメイン内で一意の名前であることが前提です。



フェイルオーバークラスタ構成の場合、仮想ドメイン追加後、稼働系、待機系それぞれの「サービス」画面でのディレクトリサーバ(openldap)サービスの「OS 起動時の状態」を必ず「停止」にしてください。

2.4. LDAPログの出力設定

LDAP サーバのログ出力を行う場合、以下を設定してください。

- (1) 「サービス」画面から「■ サービス」欄の[ディレクトリサーバ(openldap)]をクリックし、「ディレクトリサーバ(openldap)」画面を開いてください。
- (2) 「■ ログ設定」欄の「ログの出力」を「出力する」に選択して、[設定]をクリックしてください。
デフォルトは、ログ出力を行いません。

2.5. メールサーバ(dovecot)設定



フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバ側のみ実施してください。

- (1) 「サービス」画面を開いて、「メールサーバ(dovecot)」をクリックしてください。



- (2) WEBMAIL-X が使用するプロトコルを「使用する」に変更し、[設定]をクリックしてください。
「2.1.1 WEBMAIL-X のインストール」-(2) で選択したプロトコルを指定してください。

■ IMAPサーバ設定	
IMAPサーバの使用:	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
ポート番号:	143
SSL接続用ポート番号:	993
<input type="button" value="設定"/>	

■ POP3サーバ設定	
POP3サーバの使用:	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
ポート番号:	110
SSL接続用ポート番号:	995
<input type="button" value="設定"/>	

- (3) 「サービス > メールサーバ(dovecot) > メール保存容量警告/超過設定」にて、容量警告および容量超過通知を設定してください。

■ メール保存容量警告/超過通知

メール保存容量警告1

メール保存容量警告2

メール保存容量超過通知

メール保存容量警告機能：☐ 使用する ☒ 使用しない

メール保存容量警告パーセンテージ：90 %

メール保存容量警告メッセージ

送信元
(From): postmaster

タイトル
(Subject): メール保存容量警告

あなたのメールボックスは、まもなく最大容量に達します。

メッセージ
本文:

通知メール送信設定

☐ 保存容量警告メッセージをメール送信する

送信先 ☐ 対象ユーザ宛

送信元
(From):

タイトル
(Subject):

メッセージ
本文:

2.6. ユーザ管理



フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバ側のみ実施してください。

「2.3. 仮想ドメインの設定」で作成した仮想ドメインの Management Console(ドメイン管理者)画面からユーザを登録してください。

2.6.1. Management Console(ドメイン管理者)への接続

Management Console(システム管理者)の「ドメイン情報」画面から、仮想ドメインの[管理画面]をクリックするか、管理クライアントの Internet Explorer から以下の URL に接続してください。

`https://MW の IP アドレスもしくは FQDN:50453/仮想ドメイン名/admin/`

- (1) セキュリティレベルの選択によっては、接続時に以下のようなセキュリティ証明書に関する警告画面が表示される場合があります。表示された場合、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください。



図 2 セキュリティ警告画面

- (2) Management Console のトップページが表示されます。
MW のドメイン管理者用の[アカウント名]、[パスワード]を入力してログインしてください。
ドメイン管理者の[アカウント名]、[パスワード]の既定値は、システム管理者と同じです。



図 3 ドメイン管理者ログイン画面

(3) ログイン後、[ユーザ情報]をクリックしてください。



図 4 ドメイン管理者トップ画面

2.6.2. ユーザの追加

2.6.2.1. ユーザ情報の追加

■ ユーザ情報追加

グループ名: domain-a

ユーザ名:

パスワード:

パスワード再入力:

メール保存期間(日数): 180 日間

ディスク上限(メールスプール用): 204800 KB

格納サーバ: mw1.app.localdomain ▼

グループ: デフォルトグループ GID:00 ▼

説明:

設定

図 5 ユーザ追加画面

格納サーバ

メール格納先サーバ(mailHost 属性)を選択してください。

グループ

「2.2.2 WEBMAIL-X 管理グループ ID の登録」で登録したグループ名:グループ ID が選択できます。ユーザが所属するグループを選択してください。

説明

メール表示名(displayName 属性)を入力してください。

この設定値は、WEBMAIL-X からの送信メールにおける From:ヘッダの表示名に使用されます。



マルチマスタ構成の場合、「ユーザ情報」画面でユーザを追加する際、格納サーバの選択項目が表示されます。メール保存先サーバを指定してください。

2.6.2.2. ユーザ情報の追加(一括登録)

Management Console への接続端末から CSV 形式のファイルをアップロードすることで、複数のユーザを一括して登録/変更/削除できます。

利用する機能によりタイトルが「一括登録」「一括変更」「一括削除」となります。以下は、一括登録時の画面です。



図 6 一括登録画面

ファイル名

登録するユーザ情報を記述した CSV 形式のファイルを指定してください。[参照]をクリックすると、操作端末側のファイルを指定できます。パスはすべて 1 バイト系文字(カタカナ以外)を使用してください。

ブラウザによっては、1 バイト系カタカナ文字や 2 バイト系文字などが含まれるファイルを読み込めない場合がありますので注意してください。

CSV ファイルは、コンマ“,”を区切り文字として、1 ユーザ 1 行のレコード形式で記述されたものです。複数行にまたがって記載はできません。設定項目は、項番の順番に従った定位置パラメータです。

また 1 行の末尾パラメータ以降にデータが存在しても、無視されます。パラメータを省略する場合は“,”と“,”の間に何も(空白文字も)入れずに続けてください。パラメータ ON/OFF には、大文字小文字の区別はありません。

一括登録

省略可能なパラメータを省略した場合の既定値は、MW の設定値が採用されます。設定値は、ドメインで許可されている値の範囲となりますので、正しく設定した後に、本機能を実行してください。

一括変更

省略可能なパラメータを省略した場合、その項目は変更されません。接続形態の違いやドメインにより、実際に使用可能なサービスなどに違いがあります。その場合は使用できない項目を省略してください(指定しても無視されます)。ただし項目の順番を保証するため区切り文字“,”は必ず指定してください。

一括削除

ユーザ名の入力のみが必須で残りのパラメータは不要です(指定しても無視されます)。そのため一括登録で使ったファイルをそのまま使って、一括削除することができます。

CSV ファイルの形式は以下の「レコード形式一覧表」を参照してください。

レコード形式一覧表

パラメータ名	パラメータの形式	一括登録	一括変更	一括削除
ユーザ名 (uid 属性) ※ [ユーザ名_グループ名]を mc-muid 属性に設定します	最大 32 文字。英数字、記号文字(ハイフン・アンダーバー・ピリオド)	必須	必須	必須
パスワード	半角英数字、半角記号	省略可能	省略可能	—
メール保存期間 (日数)	数値	省略可能	省略可能	—
ディスク上限 (メールスプール用)	数値	省略可能	省略可能	—
ディスク上限 (ホーム用)	数値	省略可能	省略可能	—
Web ページを持つ	on/off	省略可能	省略可能	—
FTP の使用を許可する	on/off	省略可能	省略可能	—
SSH の使用を許可する	on/off	省略可能	省略可能	—
格納サーバ (mailhost 属性) (ローカル LDAP 利用時)	文字列	省略可能	省略可能	—
説明 (displayName 属性)	最大 32 文字。英数字、記号文字(ハイフン・アンダーバー・ピリオド)	省略可能	省略可能	—
GID	数値	省略可能	省略可能	—

一括登録のレコード記入例

user01,pass01,180,10,10,OFF,OFF,OFF,mail.example.com,User01,1

一括変更のレコード記入例

user01,pass01,180,10240,10240,off,off,off,mail.example.com,User01,1

一括削除のレコード記入例

user01,pass01,180,10,10,OFF,OFF,OFF,mail.example.com,User01,1

user02

user03

レコード形式は、運用形態にかかわらず 1 種類です。

2.6.2.3. ユーザ情報の更新

マルチマスタ構成において、自サーバシステム以外でユーザを追加した場合、ユーザ情報の更新が必要になります。「ユーザ情報」画面で[ユーザ情報更新]を実行して更新してください。



図 7 認証連携ユーザ情報管理画面



フェイルオーバークラスタ構成の場合、フェイルオーバー後、最新の情報を表示するためにユーザの情報更新が必要です。

なお、本画面表示以外の動作(メールサーバ機能等)については、フェイルオーバー後、ユーザの情報更新をすることなく、最新の状態にもとづき動作します。

2.6.2.4. 同期ユーザー一覧確認画面

認証を連携する openldap サーバと連携しているユーザの一覧を表示します。最新のユーザ情報に更新する場合は、[同期実行]を押下してください。

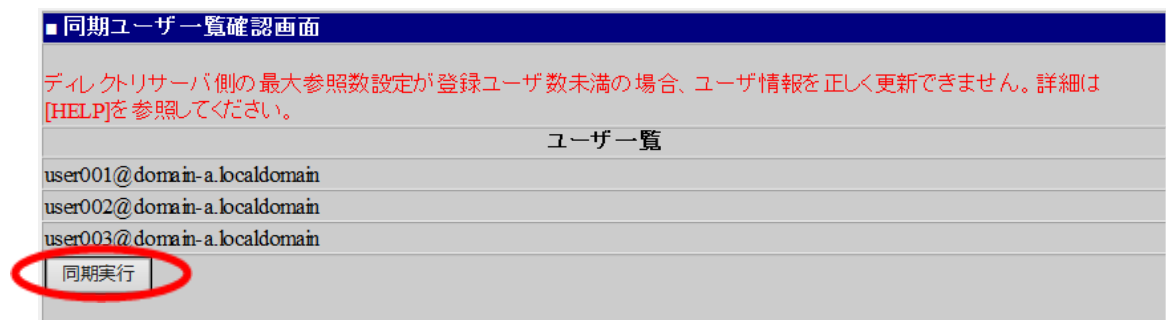


図 8 同期ユーザー一覧確認画面

3. Mission Critical Mail Filterのインストール

MW の構築が完了した後、MCMail をインストールしてください。

3.1. システム管理者メニューへの接続

管理クライアントの Internet Explorer から以下の URL に接続してください。

https://MW の IP アドレスもしくは FQDN:50453/

- (1) セキュリティレベルの選択によっては、接続時に以下のようなセキュリティ証明書に関する警告画面が表示される場合があります。表示された場合、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください。



図 9 セキュリティ警告画面

- (2) Management Console のトップページが表示されます。
MW のシステム管理者用の[アカウント名]、[パスワード]を入力してログインしてください。

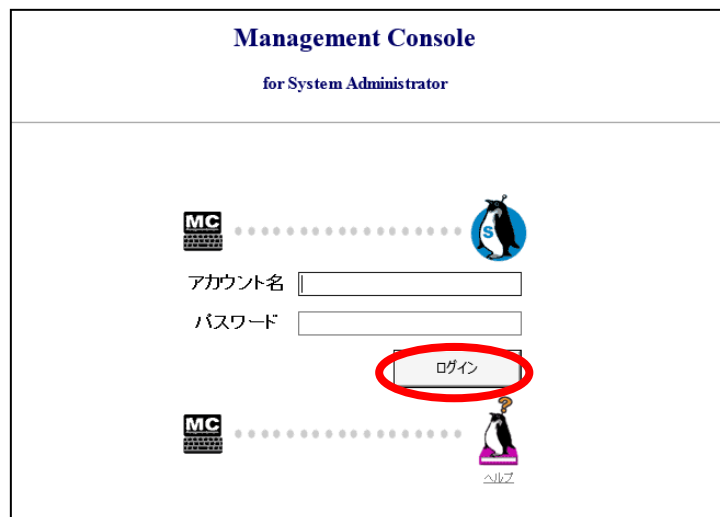


図 10 システム管理者ログイン画面

3.2. Mission Critical Mail Filterの有効化

- (1) 「サービス」画面を開き、「Mission Critical Mail Filter(MCMail)」をクリックしてください。



「Web サーバ(httpd)」サービスの現在の状態が“起動中”の場合、MCMail の有効化が正常に終了しないことがあります。MCMail の有効化開始の前に「Web サーバ(httpd)」サービスを停止し、有効化完了後に起動してください。

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
停止 ▼	停止中	起動	停止	Mission Critical Mail Filter(MCMail)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールサーバ(postfix)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールサーバ(dovecot)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールコントローラ(mwmctl)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	ディレクトリサーバ(openldap)
停止 ▼	停止中	起動	停止	Webサーバ(httpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	リモートシェル(sshd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	システム監視(nvmonitor)
停止	停止中	起動	停止	サービス監視(chksvc)
設定				

図 11 サービス一覧画面

- (2) MCMail の利用開始を行っていない場合、以下の画面が表示されます。画面を操作して [利用を開始する]をクリックしてください。MCMail の有効化処理を開始します。

■ Mission Critical Mail Filter(MCMail)

Mission Critical Mail Filter(MCMail)の利用を開始するとメールサーバ(postfix)設定を以下のように変更します。

- メールサーバ(postfix)サービスの通常ポートの番号を8025に変更します。
- メールサーバ(postfix)サービスのサブミションポートの利用を無効化します。
- メールサーバ(postfix/dovecot)サービスを停止します。

MCMail利用の設定が完了した後、メールサーバ(postfix/dovecot)サービスを開始させてください。

利用を開始する

図 12 Mission Critical Mail Filter 導入画面

- (3) インストールを開始する場合、[開始]をクリックしてください。[中止]をクリックすると MCMail のインストールを中止します。

[開始]をクリックした後、有効化が完了するまで時間がかかる場合があります。

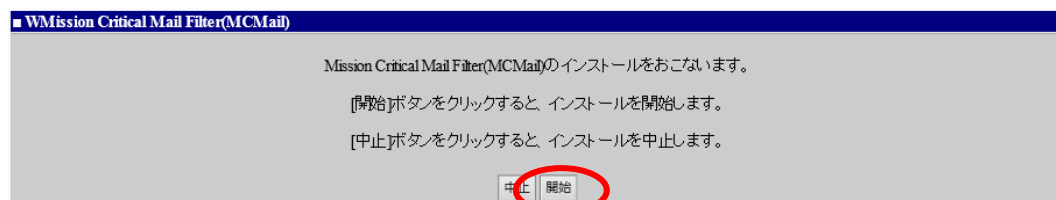


図 13 Mission Critical Mail Filter 導入確認画面



フェイルオーバクラスタ構成の場合、もう一方の機器にフェイルオーバ後、(1)～(3)の手順を実施してください。

MCMail の有効化後は、稼働系、待機系それぞれの「サービス」画面で Mission Critical Mail Filter(MCMail)の「OS 起動時の状態」を必ず「停止」にしてください。

- (4) メールサーバ(postfix/dovecot)のサービスを起動してください。



フェイルオーバクラスタ構成の場合、この手順は行わないでください。

※ フェイルオーバクラスタ構成時においては、メールサーバ関連サービスの起動管理は、クラスタスクリプトで行います。

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
起動 ▼	起動中	再起動	停止	Mission Critical Mail Filter(MCMail)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールサーバ(postfix) メールサーバ(dovecot)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールコントロール(mvnmctl)
停止 ▼	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	ディレクトリサーバ(openldap)
停止 ▼	停止中	起動	停止	Webサーバ(httpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsfipd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
停止 ▼	起動中	再起動	停止	リモートシェル(sshd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(smppd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	システム監視(mvmonitor)
停止 ▼	停止中	起動	停止	サービス監視(chkswc)

図 14 サービス一覧画面

4. Mission Critical Mail Filterの構築



フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバ側のみ実施してください。

4.1. Mission Critical Mail Filter管理機能の起動

MCMail の準備が整った後、MCMail の管理画面に接続します。

詳細な設定やライセンスの管理方法については、MCMail のドキュメントなどを参照してください。

WEB ブラウザから MCMail に接続する時は、以下の URL を直接指定するか、サービス画面から起動します。管理画面へのログインユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : mcadmin

パスワード : mcmpwd



ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。



MCMail のご利用について

MCMail を利用する場合は、ライセンスの購入が必要です。

4.1.1. WEB ブラウザから直接 URL を指定して起動する場合

WEB ブラウザから MCMail に接続する時は、以下の URL を指定します。

ーhttp://実ホスト名(FQDN 形式):23080/ (SSL 未使用時)

ーhttps://実ホスト名(FQDN 形式):23443/ (SSL 使用時)

4.1.2. MW のサービス画面から起動する場合

MW の Management Console (システム管理者) の「サービス > Mission Critical Mail Filter(MCMail)」を開き、[Mission Critical Mail Filter 管理]をクリックしてください。

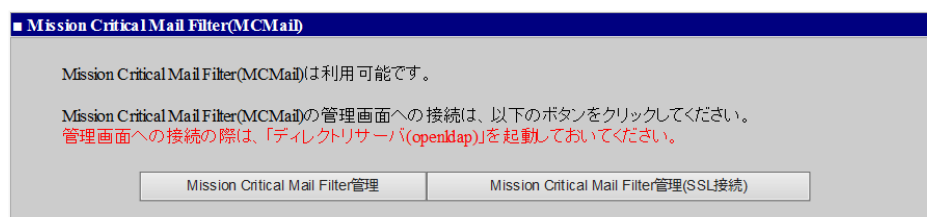


図 15 Mission Critical Mail Filter 利用開始直後の画面

4.2. ユーザライセンスの登録

ユーザライセンスを追加します。詳しくは MCMail の管理者ガイド「ライセンス管理」を参照してください。

4.3. フィルタルールの設定

MCMail 管理画面（以下、MCMail の Management Console)の[SMTP 設定]から、MCMail で処理するフィルタルールを設定します。

メール無害化用のフィルタルールはサンプルを用意していますので、サンプルを適用することも可能です。なお、サンプル適用時には必ずバックアップを実施した後にサンプル適用をお願いします。

バックアップ方法も含めて、サンプル適用方法の詳細は MCMail のシステム設計ガイド「15.1. サンプル設定の説明」を参照してください。

4.4. メール格納サーバの追加

MCMail で利用するメール格納サーバとして MW のサーバを追加します。MCMail の Management Console の[サーバ管理]から MW のサーバの FQDN を登録し[設定]を選択します。詳しくは MCMail の管理者ガイド「メール格納サーバ」を参照してください。

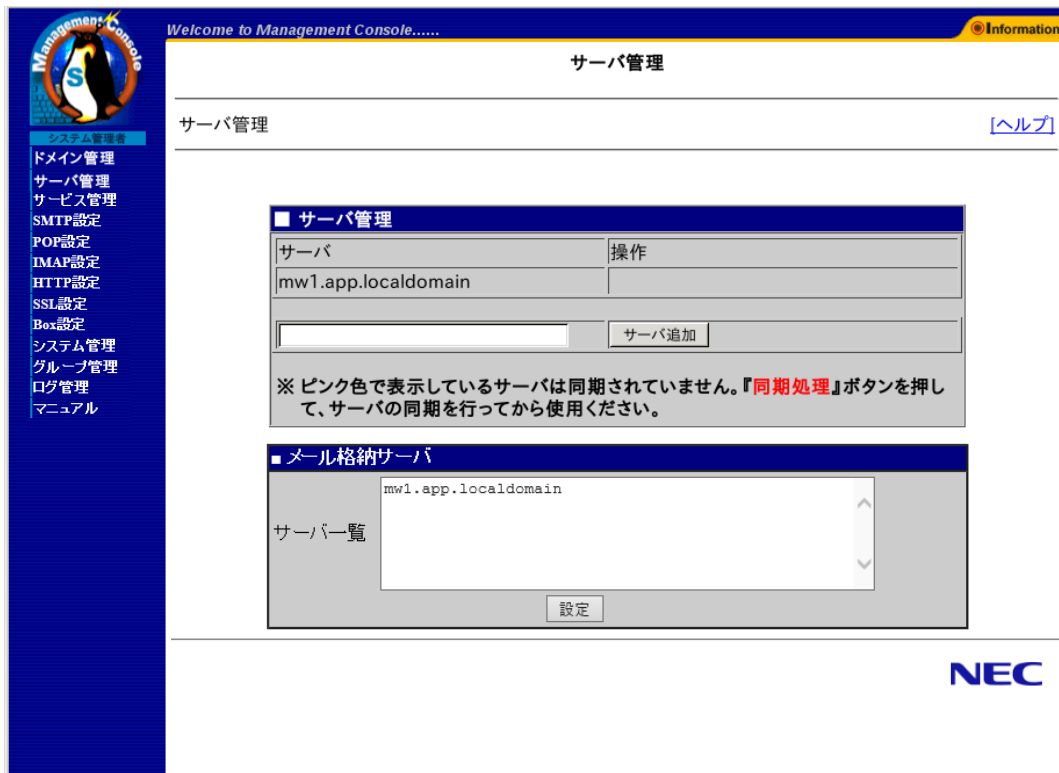


図 16 メール格納サーバ設定画面

4.5. 格納サーバ・隔離メール格納サーバの指定

MCMail で利用する格納サーバ、隔離メール格納サーバを指定します。MCMail の Management Console の[システム管理]-[デフォルトシステム設定]の格納サーバ、隔離メール格納サーバに MW のサーバの FQDN を登録し[設定]を選択します。



フェイルオーバークラスタ構成の場合は、FIP(フローティング IP)に紐づく FQDN を指定してください。これは、以下の設定画面で指定された、フェイルオーバークラスタ基本設定におけるホスト名です。

Management Console(システム管理者)「システム > フェイルオーバー」画面で [フェイルオーバーの設定]をクリックして開かれる「クラスタ(フェイルオーバー)」画面の「■フェイルオーバー基本設定」欄-「ホスト名(FQDN)」

詳しくは MCMail の管理者ガイド「デフォルトシステム値」を参照してください。

図 17 ライセンス追加・システム管理の設定直後の状態例

4.6. エラーメール送信者リストの指定

MCMail の処理でエラーとなったメールを配信する宛先を設定します。MCMail の Management Console の[SMTP 設定]-[共通設定]-[基本設定]のエラーメール送信者リストにアドレスを登録します。

詳しくは MCMail の管理者ガイド「基本設定」を参照してください。

4.7. 配送ルールの設定

MCMail で処理したメールを正しく配送するためのルールを設定します。MCMail の Management Console の[SMTP 設定]-[MTA 設定]-[配送ルール]から設定します。

詳しくは MCMail の管理者ガイド「配送ルール」を参照してください。

なお、「4.3 フィルタルールの設定」にて、メール無害化用のフィルタルールのサンプルを取込む場合、MSA/MTA/MTA2 は以下を前提としたフィルタルールが適用されますので、配送ルールはフィルタサンプルを考慮した設定をしてください。

MSA	内部利用者からの外部もしくは内部宛のメールを受信し、上位 MTA、もしくは内部 MTA に配送します。
MTA	外部からの内部利用者宛のメールを受信し、メールを MTA2 に複製した上で、MW 上の Postfix に配送します。
MTA2	MTA で複製したメールに対して無害化処理を実施した上で、内部のメールサーバ(LGWAN メールサーバ等)に配送します。

(配送ルール設定例)

メール無害化用のフィルタルールを適用した配送ルール例になります。実際に導入する環境に応じた設定を実施してください。

	パターン	タイプ	ホスト名
MSA	domain-a.localdomain	local	
	*	static	※上位メールサーバのホスト名 もしくは IP アドレス
MTA	domain-a.localdomain	local	
MTA2	domain-a.localdomain	static	※内部メールサーバ(LGWAN メールサーバ等)のホスト名 もしくは IP アドレス



図 18 配送ルール設定直後の例

4.8. ドメインの追加

MCMail で受信するメールドメインを追加します。MCMail の Management Console の[ドメイン管理]から追加します。

- ・追加したドメインの有効化を忘れないようにしてください。
- ・すべてのドメインを追加後、不要なドメインを削除してください。

詳しくは MCMail の管理者ガイド「管理画面」を参照してください。

以下の図は domain-a.localdomain を MW に格納する設定例です。

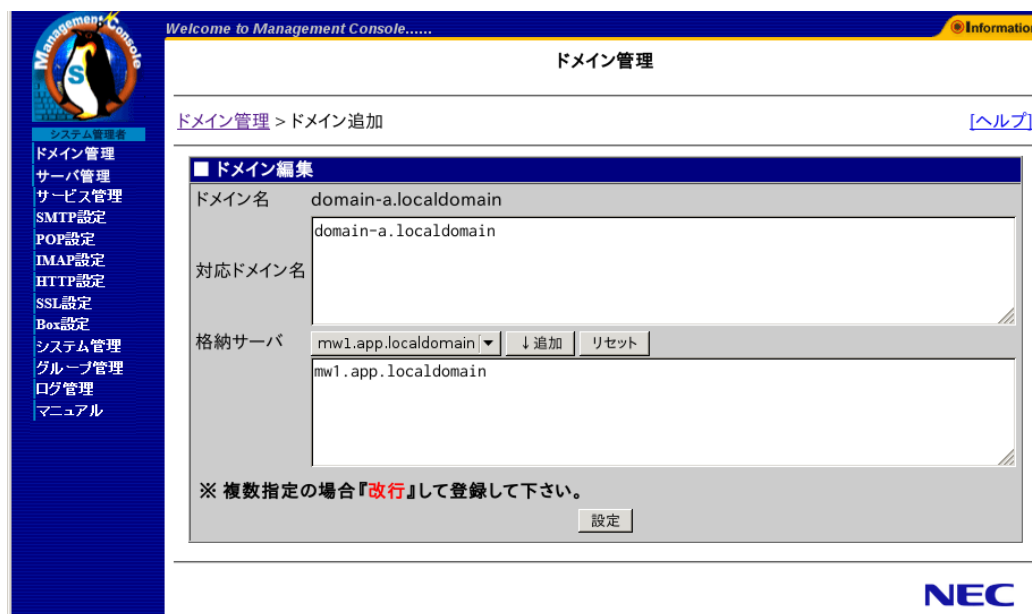


図 19 ドメイン追加実行例

4.9. SMTPサービスの再起動

これまでの設定を反映するため、SMTP サービスを再起動します。MCMail の Management Console の[SMTP 設定]-[SMTP 再起動]から「再起動」を行います。



図 20 SMTP サービス再起動画面

4.10. メールの導通確認

実際にメールを送信し、「4.7 配送ルールの設定」で設定した配送ルール通りにメールが配送されることを確認します。

5. フェイルオーバークラスタ構成の確認

フェイルオーバークラスタ構成において、待機系にフェイルオーバーした場合に設定やサービス起動状態が引き継がれているかを確認してください。

5.1. サービス起動状態の確認

MW の Management Console(システム管理者) のサービス画面で、「1.4.1 「7. クラスタスクリプトの編集」 について」で起動を行うようにしたサービスが起動していることを確認してください。

5.2. LDAP設定状態の確認

- (1) MW の Management Console(システム管理者)の「サービス」画面を開き、「■サービス」欄の[ディレクトリサーバ(openldap)]をクリックしてください。
- (2) 「ディレクトリサーバ(openldap)」画面が表示されます。
「■ディレクトリサーバ(openldap)」欄が「2.2.1 LDAP サーバの設定」において、設定した内容と同一になっていることを確認してください。
- (3) 「ディレクトリサーバ(openldap)」画面の「■グループ情報設定」欄表示について、「2.2.2 WEBMAIL-X 管理グループ ID の登録」において、指定した内容と同一であることを確認してください。

5.3. Mission Critical Mail Filterの設定状態確認

「4 Mission Critical Mail Filter の構築」で設定した内容がフェイルオーバー後の機器において反映されていることを確認してください。確認は、MCMail の Management Console 画面で確認してください。

手順書中設定を行った項番	確認内容
4.2 ユーザライセンスの登録	[システム管理画面]の[スアカウントライセンス管理]欄において、左項目にて登録した数のライセンスが表示されていることを確認してください。
4.3 フィルタルールの設定	[SMTP 設定]画面において、左項目にて指定した内容が表示されていることを確認してください。
4.4 メール格納サーバの追加	[サーバ管理]画面の[メール格納サーバ]欄において、左項目で指定したメールサーバが表示されていることを確認してください。
4.5 格納サーバ・隔離メール格納サーバの指定	[システム管理]-[デフォルトシステム設定]において、左項目で指定した内容が表示されていることを確認してください。
4.6 エラーメール送信者リストの指定	[SMTP 設定]画面において[■ 共通設定]欄中の[基本設定]ボタンを押下してください。 次に表示される共通設定画面の[示基本設定]欄においてエラーメール送信者リストの表示内容が、左項目で指定した内容であることを確認してください。
4.7 配送ルールの設定	[SMTP 設定]画面の[面 MTA 設定]欄中の[配送ルール]ボタンを押下し表示される内容が、左項目において指定した内容として表示されていることを確認してください。

6. 注意事項

- 「Mission Critical Mail Filter for InterSec/MW」は、MCMail インストール直後の設定状態において以下の点で MCMail 標準製品と異なります。
 - ✓ HTTP サービス、なりすましフィルタ、スパムフィルタ、ウィルスフィルタ、隔離メール格納サービス、流量制限サービス、テキスト抽出サービスは無効状態(停止した状態)です(標準製品はすべて開始した状態です)。
構築完了後に開始することができます。
 - ✓ MCMail の初期管理者の ID とパスワードの既定値が異なります。
 - ✓ 定義されている MTA 数は 2 です(標準製品は 4 です)。
構築完了後に最大 62 まで定義することができます。
- MW でのユーザ管理方法(「ドメイン情報」画面「認証連携サーバの種類」の指定)変更はできません。変更する場合は、仮想ドメインの再作成を行ってください。
- ユーザ登録操作(追加・変更・削除)は、MW の Management Console(ドメイン管理者)画面から行ってください。
直接、ディレクトリサーバ(openldap)へのレコード操作を行われると、正常に動作しない可能性があります。

7. 補足情報

7.1. スキーマ情報

MW のディレクトリサーバ(openldap)は以下のスキーマを使用します。

属性名	項目	詳細
mc-muid	メー ル ユー ザ ID (MUID)ユーザを一意に識別する文字列	最大 32 文字。英数字、記号文字(ハイフン・アンダーバー・ピリオド)
mail	メールアドレス	最大 300 文字まで
mailhost	メール格納サーバのホスト名	ホスト名(IP アドレス不可)
mailhost	隔離メール格納サーバのホスト名もしくは IP アドレス	ホスト名(IP アドレス不可)
displayName	ユーザ名(表示に利用)	最大 32 文字。英数字、記号文字(ハイフン・アンダーバー・ピリオド)
-(省略)	ユーザの役割	利用可能サービス
-(省略)	ユーザが利用可能なサービス	ユーザ状態
-(省略)	予約	
-(省略)	予約	
-(省略)	予約	
userpassword	パスワード	
departmentNumber	ユーザグループ番号	WEBMAIL-X 管理のグループコード
mc-allowsvc	許可サービス	許可サービスの指定

7.2. Mission Critical Mail Filterの許可サービスの設定

MCMail におけるユーザの許可サービスの指定を行う場合は、以下の手順に従って、設定を行ってください。

(1) ssh、または、コンソールにて MW サーバにログインしてください。

(2) 以下のコマンドを実行し、root ユーザになってください。

```
su -
```



・ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。

(3) 以下のコマンドを実行し、許可サービスの設定ツールを実行してください。

```
intersec-mcmail-role
```

(4) イン트로ダクション画面が表示されます

[< Next >]を選択([Enter]キーを押下)してください。

```
File
InterSec User role Configuration tool: Introduction (1/3)
This application is a mcmail user role setting tool.
To access the next page,press the <Next> botton.
To move back to the previous page,the <Previous> botton.
To exit this application ,Press Ctrl + Q.
Do not exit this application until you have fully completed
the configuration.If you exit before completing the configuration.
You will truncate the data.
< Next >
%CTRL+Q: quit
```

(5) 設定情報入力画面が表示されます。イントロダクション画面が表示されます。

許可サービスを変更するユーザの仮想ドメイン名(Domain Name[*])、ユーザ名(User Name[*])を入力してください。次に、許可するサービスにチェック("X")をつけてください(チェック状態を変更する場合は、当該項目に<Tab>キーで移動後、スペースキーを押下してください)。

```
File
InterSec User role Configuration tool: User role (2/3)
You can modify which privileges are associated with the mcmail service role.
Please specify the user of role is to be changed and specify the role.
The "[*]" means information is required.
To access the next item, press the <TAB> key.

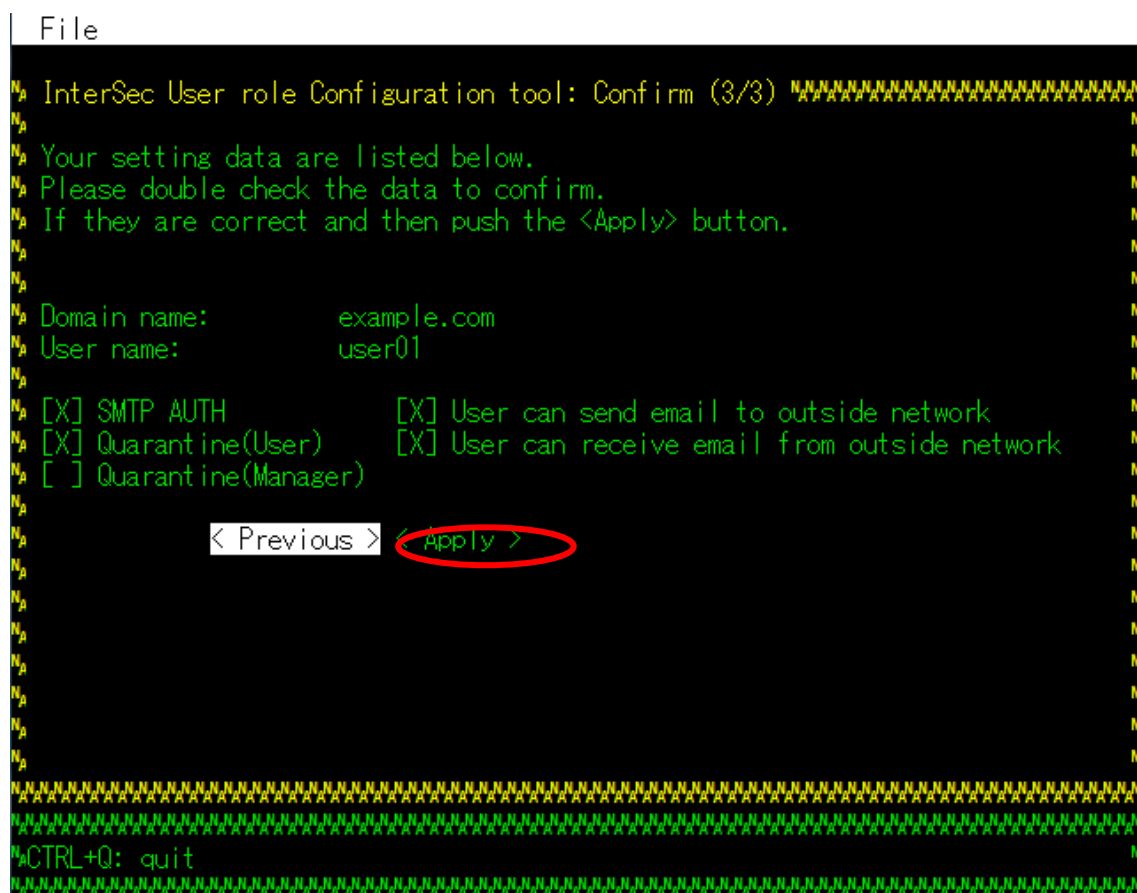
Domain Name[*]: [ ]
User Name[*]: [ ]

[X] SMTP AUTH [X] User can send email to outside network
[X] Quarantine(User) [X] User can receive email from outside network
[ ] Quarantine(Manager)

< Previous > < Next >

%CTRL+Q: quit
```

(6) 確認画面が表示されます。



(7) 完了画面が表示されます。

[< OK! >]を選択してください。入力された設定が有効な状態になります。



Mission Critical Mail Filter
for InterSec/MW
導入手順書
2021 年 1 月 1 版

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2021

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。